

「原子力部門の安全・品質に係わる活動実施状況と今後の課題 (これまでのテーマ監査フォロー)」監査報告総括

監査目的

H14年以降取り組んできた、原子力部門の安全・品質に係わる活動状況について、監査結果の総括と現状評価により、次に取り組むべき発電所の業務プロセスに係わる課題を確認すること

監査結果総括

過去の監査時に抽出した課題は、その都度対策を検討し**ほぼ着実に実施**

品質マネジメントシステム体系の構築（特に文書体系の整備，不適合管理の定着）

当社や他社のトラブル対策の展開（配管減肉，ヒューマンエラー等）

不祥事の再発防止対策の実施（GE指摘，東芝流量計，データ改ざん）

規制変化（安全管理審査）への対応や組織の機能強化

その一方で、継続している課題や新たに発生した課題が顕在

人的資源：保全要員の確保と人材育成方策

運転・保全：ラド施設の運転・保全への当社の関与，パスポートの将来構想等

新たな課題：新検査制度への対応，中越沖地震への対応

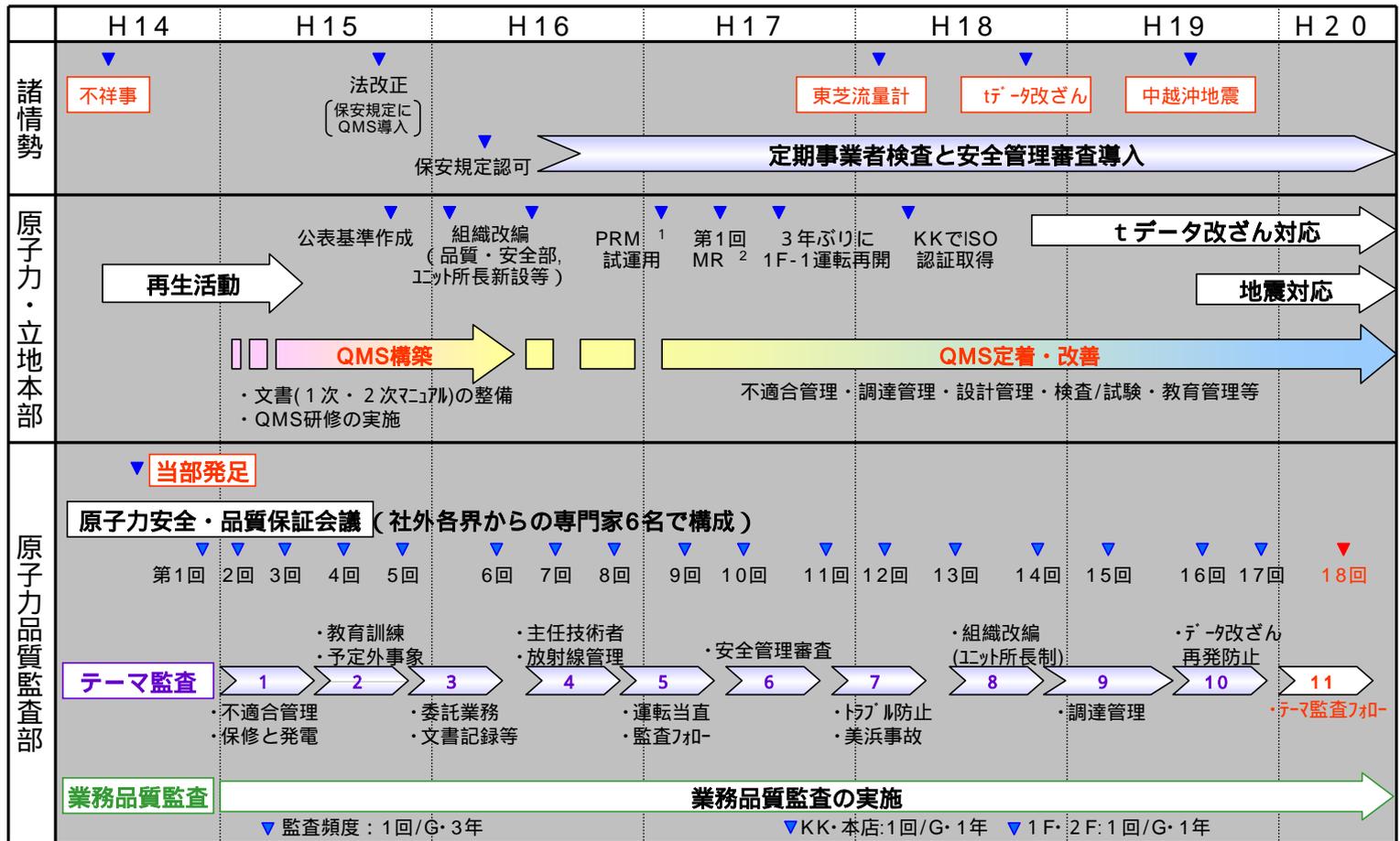
品質管理：マニュアルの標準化・簡素化等

監査の方法

- ・過去の監査結果と原子力安全・品質保証会議のご意見の対応状況から課題を抽出
- ・重要課題について絞り込み，ヒアリングや書面による監査を実施(12件)



本部の活動と監査の経緯



1. 監査結果

(1)原子力部門における改善状況の確認

J E A C 4 1 1 1 (「原子力発電所における安全のための品質保証規程(社)日本電気協会」)
に基づいたQMS体系の構築と定着

- ・保安活動プロセスの明確化・文書化, 継続的改善の仕組みを構築
マニュアルの整備, 不適合管理の充実
- ・QMSの定着による発電所業務の改善
文書や記録管理の充実による検査対応の明確化
検査品質の向上(検査者の力量確認, 計測機器の校正記録確認)

意識の醸成・向上

- ・不適合を隠すことなく公表
公表基準と不適合管理の導入
- ・マニュアルに基づく業務の実施
- ・3発電所共通の課題認識を持ち議論
PIの導入, PRMや所長会議の開催等

当社や他社トラブルへの対応

- ・美浜発電所事故に係る対応 配管減肉管理業務の体制と業務プロセスの構築・実施
- ・ヒューマンエラー防止に向けた対応 発生率を目標値に定め改善継続(減少傾向)

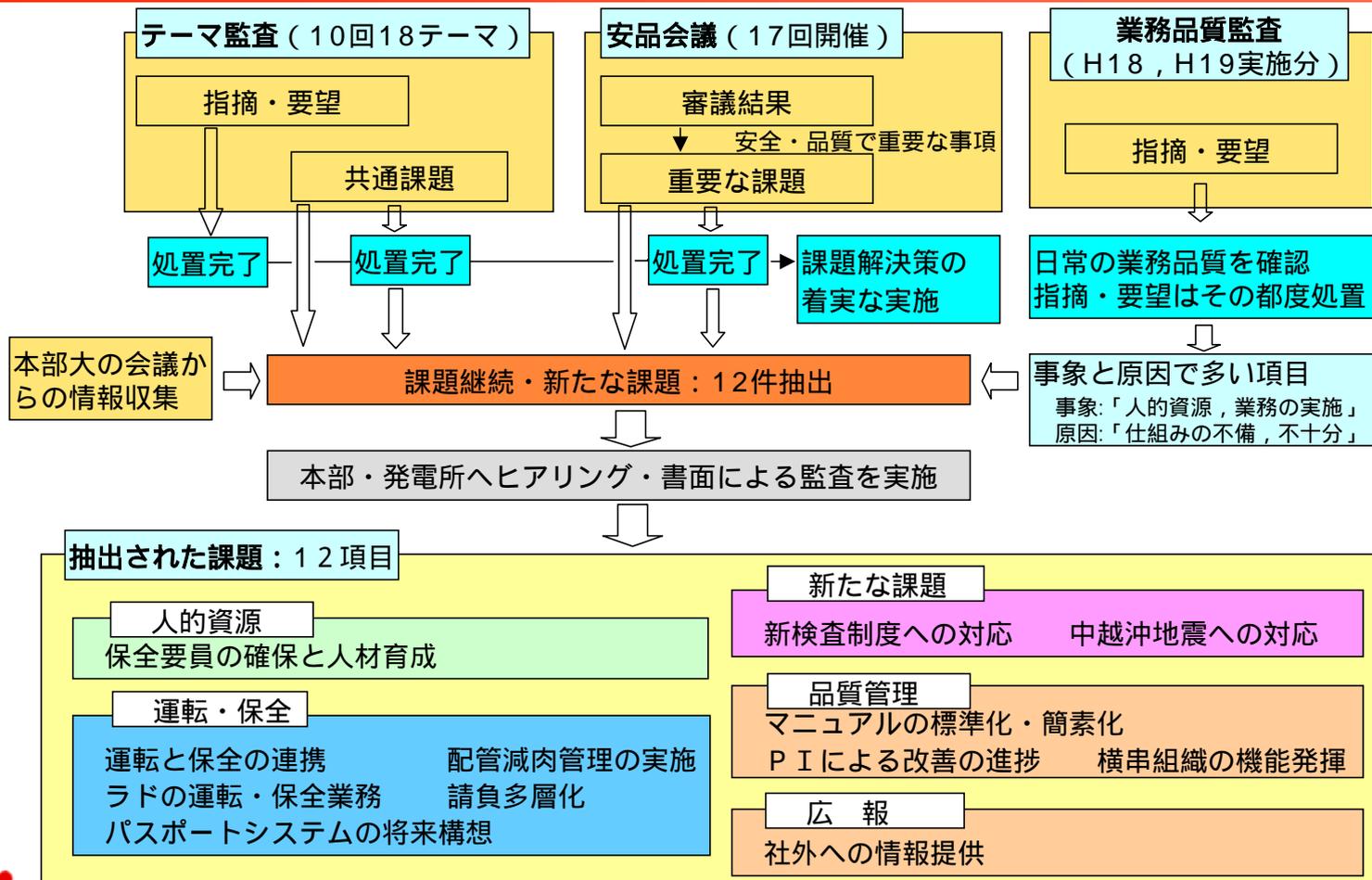
不祥事の再発防止対策

- ・GE社指摘事項を発端とした不祥事(H14.8)
- ・東芝流量計問題(H18.1)
- ・tデータ改ざん問題(H18.11) 平成14年不祥事以降の新規発生はなし

規制変化への対応と組織の機能強化

- ・安全管理審査への対応 2F:A評定を3定検で取得
- ・組織改編(品質・安全部等:H16.1, ユニット所長等:H16.7)による品質管理・内部管理の強化

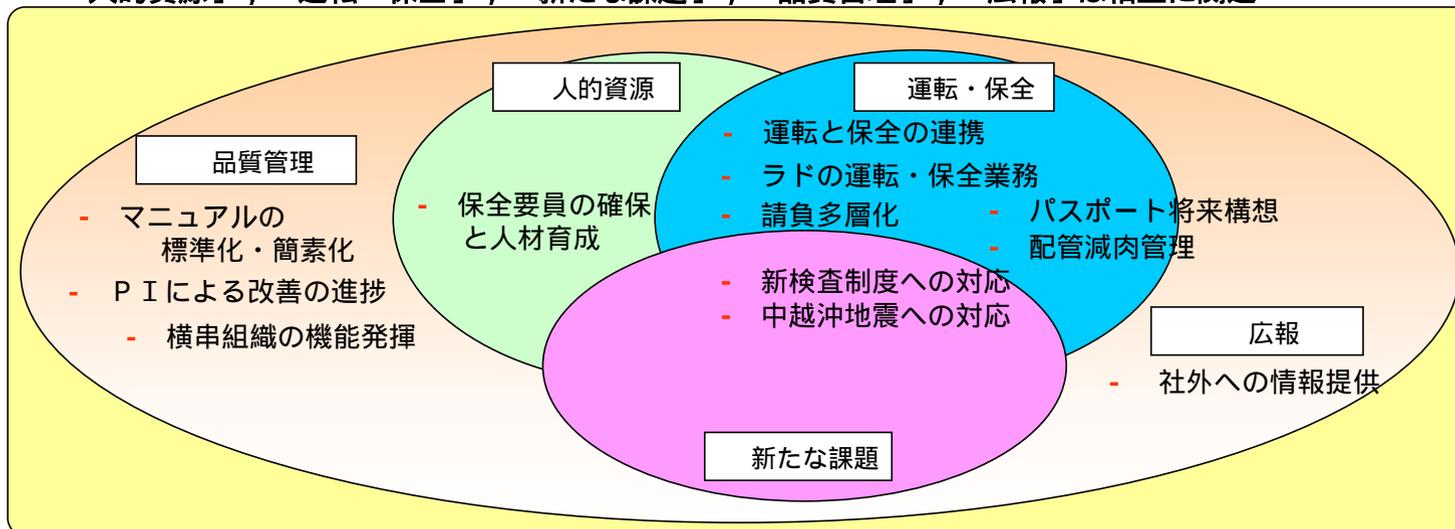
(2)課題の整理と抽出



(3)抽出された課題の相互関係

今後、本部・発電所が取り組むべきと考えられる、抽出された個別課題

「人的資源」、「運転・保全」、「新たな課題」、「品質管理」、「広報」は相互に関連



・要員確保と人材育成は、プラント運転・保全業務の遂行や新たな課題への対応の基盤

運転と保全の連携，ラド設備の運転・保全の管理強化，新検査制度への対応へつながることから，計画的で着実な実施が必要

・品質管理の維持・向上は，全ての業務を支える基盤

横串組織の一層の機能発揮と P I による業務改善を進め，マニュアル標準化・簡素化を推進

・社外への情報提供は，当社が発電所運営を行っていく上での基盤

透明性確保に加え，社会のニーズにあったわかりやすい情報発信が必要。そのため，広報要員の教育訓練の充実と日常の地域対応が必須



2. 今後の監査の進め方

抽出された12課題に対する原子力品質監査部の確認方法

種別	抽出された課題	確認のポイント	監査・監視活動		
			テーマ	業品	監視
人的資源	保全要員の確保と人材育成	出向戻し・人材育成方策の検討・展開			
運転・保全	運転と保全の連携	接点業務の調整・実施			
	ラドの運転・保全業務	当社と協力企業との関係の検討・実施			
	パスポートシステムの将来構想	将来構想の確定，発電所への展開			
	配管減肉管理の実施	業務プロセスの再確認			
	請負多層化	多層化解消による業務改善			
新たな課題	新検査制度への対応	体制，保全プログラムの策定等			
	中越沖地震の課題への対応	耐震強化，危機管理への対応等			
品質管理	マニュアルの標準化・簡素化	価値観の共有状況，実施後の効果			
	PIによる改善の進捗	定着による業務改善			
	横串組織の機能発揮	業務の遂行状況とラインの受け止め方			
広報	社外への情報提供	見える化方策や日々の公表実績			

(凡例) テーマ：テーマ監査で確認， 業品：業務品質監査で確認， 監視：会議陪席や現場確認等の実施